

ミカン尾鈴早生の特性

波多野 洋・串間 新一・*松田儀四郎 (宮崎県総合農業試験場・*日南農業改良普及所)

HATANO, H., S. KUSHIMA and G. MATSUDA: Characteristics of the Early Ripening Satsuma Mandarin "Osuzuwase"

尾鈴早生は宮崎県児湯郡都農町、河野和廣氏が1959年宮川早生の苗木50本を、大分県津久見市より導入した中から発見された。1965年より結実を始め、着色、果汁中の酸の減少とともに宮川早生より早い1樹全体が変異した枝変わりである。1974年より1979年まで、極早生ウンシュウの一系統として調査した結果を報告する。

1. 調査方法

児湯郡都農町字川北にある原木及び第2世代の若木園を対象に現地調査を実施した。樹性、果形及び果実の肥大については、原木と原木近くに栽植されている同一樹齢の宮川早生と比較調査した。また成熟の経緯については、原木並びに第2世代の幼木について調査した。

2. 調査結果及び考察

1) 樹性

尾鈴早生の樹性と宮川早生のそれを比較して、相異なる項目は、節間長、葉身長、葉身の幅の3項目で、葉の厚さ、葉面積、枝梢の太さなどは同一であった。すなわち、尾鈴早生は宮川早生に比べて、緑枝の節間がつまり、葉身は丸形のものが多い。

2) 果形

樹冠赤道面の20個の果実を無作為に採取し、果形の重要な項目と思われる果実重、果形指数、果皮の厚さなどについて調べた。果実重は無摘果のため、S級であった。また果形指数は宮川早生とほぼ同一で、宮川早生の果形に良く似ている。しかし、果皮の厚さは0.4mmくらい尾鈴早生の方が厚い。果実の横断面は、やや不整形のものが多い。これは1果中の、じょうのうの大きさが大小不揃である場合が度々あることを示している。果心の中室は宮川早生に比べて大きく、9月中旬すでに中空状態になっていることも特徴の一つである。

3) 果実の肥大

果実の肥大調査によると、M級の規格に到達するのは9月上旬で、10月上旬にはL級になる。この時期になると浮皮が出現し、10月下旬には大多数の果実にかなり強い浮皮がみられる。

4) 着色の進み方

第1表 着色の進行 (1970年調査)

	9月9日	9月22日	10月8日	10月21日
尾鈴早生	着色始め	1~2分	4~5分	完着
宮川早生		着色始め	1~2分	完着

第2表 果汁中の糖度の推移 (1978年調査)

	8月24日	9月4日	9月14日	9月25日	10月9日
尾鈴早生	6.2%	7.2%	7.3%	7.0%	7.7%
宮川早生	6.1%	7.5%	7.5%	7.9%	8.3%

第3表 果汁中のクエン酸の推移 (1978年調査)

	8月24日	9月4日	9月14日	9月25日	10月9日
尾鈴早生	2.80%	2.05%	1.69%	1.32%	1.17%
宮川早生	2.98%	2.35%	1.92%	1.51%	1.22%

果実の着色が1~2分に達する時期は、概ね、9月20日頃であった。これは宮川早生に比較すると2週間前後早い。

5) 果汁中の糖度

1974年より1978年まで8月下旬から10月上旬のほぼ同時期に果汁中の糖度を測定したが、各時期とも、尾鈴早生の糖度は宮川早生に比べて低かった。また欽質土壌傾斜地に栽植されている第2世代の糖度は、原木よりも若干高くなっていた。この第2世代の樹は末だ若木であり、樹勢が落ちつけば、更に糖度は増加するものと期待される。

6) 果汁中のクエン酸

果汁中のクエン酸濃度は宮川早生に比較し、8月下旬の調査時点ですでに低く、その後も引続き低い値を示した。すなわち9月中旬1.5%台となり、10月上旬には1.2%、さらに10月下旬0.9%以下となった。減酸については明らかに宮川早生よりも早かった。

尾鈴早生が発生した都農町を含む宮崎県の中央部の産地では、これを極早生として出荷できる期間は、これらの特性を総合して考えると9月中旬より10月中旬までの約1か月位である。今後これらの特性を充分に發揮させる栽培方法について、検討を加えたい。